

医療・福祉、透析専門設計事務所が提案する 透析医療会館向け WEB動画セミナー

『 withコロナ社会の透析施設づくり 』

～ コストを考慮した施設計画のポイント～

株式会社ゆう建築設計

第1部 新型コロナ感染症に関する 透析施設からの問合せ内容と対策状況



河津 孝治
常務取締役
東京事務所 所長

- 新型コロナ発症後の各透析施設からの問合せ内容
- 各透析施設のソーシャルディスタンスへの取組み
- 院内感染の防止に向けた動線計画

第2部 withコロナ社会の透析施設づくりのポイント



木下 博人
チーフ

- ソーシャルディスタンスを保つための対策とコスト
- 透析室における空調と換気

第1部-1-1 新型コロナ発症後の 各透析施設からの問合せ内容

- 「**ベッド間距離**が取れない場合は、みんなベッド数を減らしているのか？」
 - 「**隔離個室**だけでなく、透析室内は、**患者同士が近くにいる環境**のため患者からの不安を常に受ける。なんとかならないか？」
 - 「他施設は、透析患者**更衣室の利用**をしているか？」
 - 「この透析室の**換気**はどうなっている？」
- ⇒ 3密対策
- 「**疑いのある患者への対応**でスタッフが濃厚接触者として2週間自宅待機することもあり、疲弊している。他施設はどうしている？」
 - 「他施設はコロナ禍で**シーツ交換の頻度**はどうしている？」

密集
場所密接
場所密閉
空間運営上
対策

■日本透析医学会

⇒随時、医療体制、透析施設の対応について発信・啓発

- ① 患者には**サージカルマスク**を装着させる。
 - ② 診察および透析を行う場合には、**個室隔離**が望ましい。個室隔離透析が不可能な場合には、飛沫距離を十分に考慮した**ベッド間隔（2m以上）を確保する空間的隔離**か、時間的に他の患者と接触しない対策を確保する**時間的隔離**を行う。
 - ③ 診察室および透析施行に際しては**十分な換気**を行う。
 - ④ 医療者が診察や透析医療を行う場合には、**個人防護具（PPE）**を用いる。非透水性**ディスポーザブルガウン**、**サージカルマスク**、**ゴーグル**または**フェイスシールド**、**ディスポーザブル手袋**を着用する。
 - ⑤ **透析患者の更衣などは、他の透析患者と接触がないように、別室を使用するなど**の対策を行う。
 - ⑥ 透析後の清掃および消毒は、肝炎ウイルスに使用している**中水準消毒**で対応する。
※標準予防策、PPE、接触感染および飛沫感染、環境の清掃および消毒の詳細は、「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（四訂版）」参照
- ※透析患者に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が疑われた場合及び確定した場合の対応 ⇒各保健所からの指導に従う。

第1部-1-2 新型コロナ発症後の 各透析施設へのヒアリング内容

- ① 透析患者様の**新型コロナ対策**をされていますか？
透析室入室前の検温、37.5°を超える患者様へのPCR検査依頼や実際の透析治療についてなど貴院の実施されている対策についてお聞きしたいです。
(具体的な対策)
- ② 新型コロナ陽性の透析患者様が出た場合の対応はどのようにされていますか？
⇒保健所の指示に従い、別の指定医療機関へ移す。
- ③ 今後も長期化しそうな新型コロナウイルス感染状況ですが、貴院で施設運営において必要な具体的な**今後の対策内容**を教えてください。
(今後の具体的な対策)

① 透析患者様に対して、 どのような新型コロナウイルス対策をされていますか？

■クリニック

A：入室前の検温。

疑いのある患者を隔離個室で透析治療。⇒PCRの結果待ち。
スタッフは濃厚接触者の恐れがあるため、2週間自宅待機で疲弊している状態。

B：患者の自宅での体温測定や手洗い、うがい等の啓蒙を行っている。

発熱や風邪症状、その他コロナウイルス感染症が疑われる症状の場合は来院前に電話連絡を頂く。
⇒建物の別の感染症用出入口を使用し、スタッフは**个人防护具**を用いて**隔離透析**を行う。

C：感染患者の恐れがある場合、専用の時間帯にてスタッフが防護服・マスク等着用の上、透析実施。

⇒その後、病院と連携の上、PCR検査を受けてもらう。
スタッフは毎回検温、通常透析でもゴーグル・マスクを着用。

D：更衣室、待合室の使用禁止。(3密防止対策)

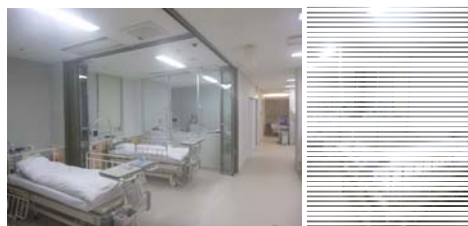
⇒ロッカー使用不可のため土足で透析室入室前に泥除けマット、吸着マット設置

E：透析室内の定期的な換気。

① 透析患者様に対して、
どのような新型コロナウイルス対策をされていますか？

■透析病院

- A：新型コロナ患者の入院受け入れ検討中。受け入れていない病院。
地下のトリアージ室でPCR検査のみ行い、保健所指示で他院移動となる状況。
疑いのある患者は、PCR検査の結果が出るまで個室透析。
- B：患者の行動範囲・履歴の確認の上、「濃厚接触（あるいは疑い）」など接触レベルで対応。
濃厚接触者と接触した疑いのある患者は、すべて個室透析対応（2週間）としている。
発熱症例患者は、その原因を問わず、車内待機の上、医療職が問診、付き添いで別動線で移動し個室管理を行って対応。
- C：疑いレベルの場合は、観察室（個室）での対応。
その際、動線は明確にする。
- D：透析室入口扉など車椅子対応として利用される扉を非接触の自動扉にしてもらっていて良かった。
コロナ対策となった。



③ 今後も長期化しそうな新型コロナウイルス感染状況ですが、
貴院で今後の施設運営において必要な具体的な対策内容を
教えてください。

■透析病院

- A：スタッフに感染させないよう、感染防止対策製品の備蓄
疑い患者が多数出た場合の透析スペースの確保。患者利用の扉の非接触化。（自動扉化）
- B：病棟内に透析可能な病室（4床）を隔離室使用する。前室をパーティションで区切り、
着替えスペースで感染しない十分な準備を行い、陽性透析患者の透析治療の検討。
（人工呼吸器も必要な患者想定）
- C：スタッフの精神衛生面（スタッフがイライラしている）対策。

■クリニック

- A：受付窓口の飛沫感染防止のためのパーティション設置。
感染患者が増加した際の隔離ベッドの増床。（可動間仕切り等）
個人防護の徹底。待合スペース、更衣室の使用制限。
- B：少ない隔離個室とその他の準個室透析室で飛沫対策、陰圧環境の空調換気システム
にならないか？
- C：個室透析化、顔が見えない準個室の対策ができないか？

第1部-2-1. 各透析施設の ソーシャルディスタンスへの取組み

空間的隔離

時間的隔離

3密の防止



外来待合の椅子の間隔あけ

1) 空間的な隔離 飛沫距離を考慮した患者配置

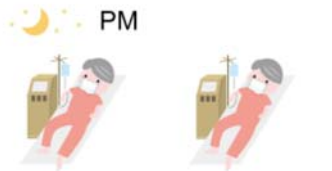
- 患者同士の距離
- ベッド間距離



2m以上

日本透析医学会 令和2年3月4日
新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について
(第3報参照)

2) 時間的な隔離 感染者と非感染者を午前と午後 に分けるなど滞在時間をずらす



第1部-2-2.各透析施設の ソーシャルディスタンスへの取組み

具体的な相談例

- 隣の患者だけでなく、背中合わせの患者との空間的隔離対策はないか？
- 大部屋透析を準個室透析にできないか？

第1部-2-2.各透析施設の ソーシャルディスタンスへの取組み

- 隣の患者だけでなく背中合わせの患者との空間的隔離対策
⇒新型インフルエンザ流行時の相談での対策事例



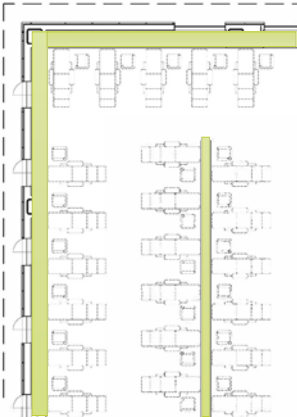
第1部-2-2.各透析施設の ソーシャルディスタンスへの取組み

- 大部屋透析を準個室透析にできないか？ ⇒スペース確保により減床

既存：23床

改修A：20床

改修B：16床



※施主側の声
ベッド数を減少しても
隣の咳が気になって
落ち着かない。

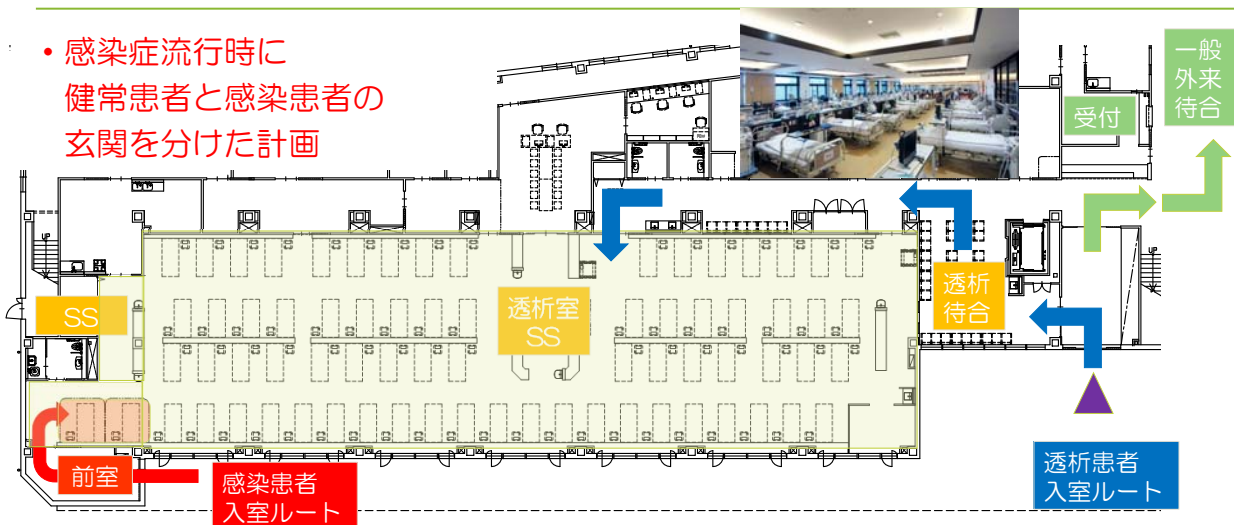
第1部-3. 院内感染の防止に向けた動線計画

■熱のある新型コロナの疑いのある患者に対して

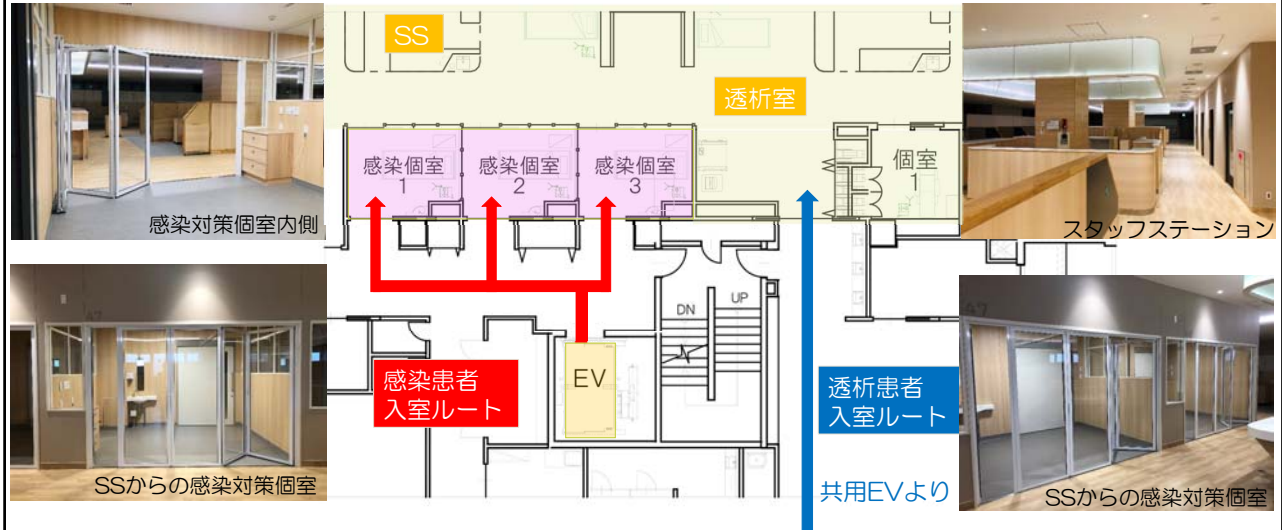
1. 透析施設の**玄関**から感染動線を分離
2. **EV動線**から感染動線を分離（上階に透析室がある場合）
3. 透析**室前**で感染動線を分離
4. 透析**室内**で感染動線を分離

第1部-3-1. 透析施設の玄関から感染動線を分離

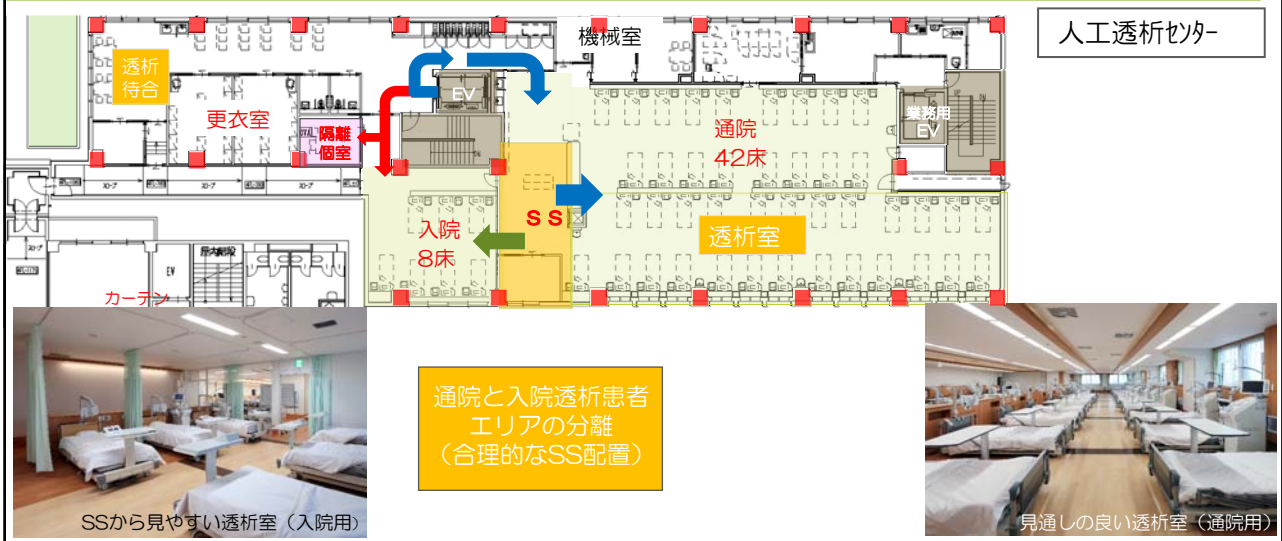
- 感染症流行時に
健常患者と感染患者の
玄関を分けた計画



第1部-3-2. EV動線から感染動線を分離 (上階に透析室がある場合)



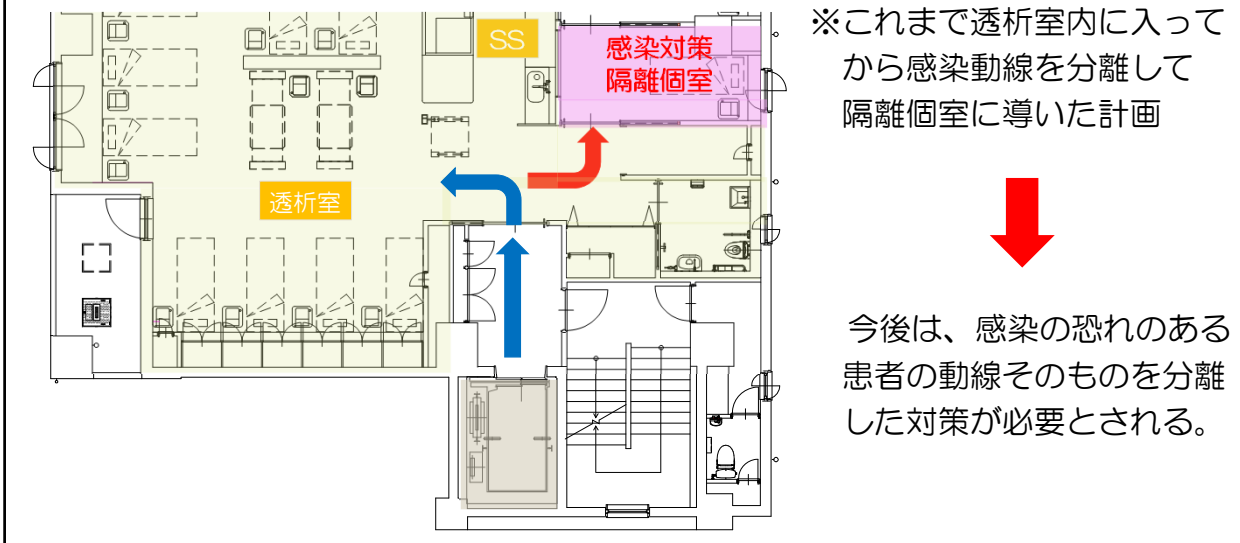
第1部-3-3-①.透析室前で感染動線を分離



第1部-3-3-②. 透析室前で感染動線を分離



第1部-3-4. 透析室内で感染動線を分離



透析治療空間が変わる！
⇒透析施設づくりが変わる！

透析治療 ⇒新型コロナ感染流行時でも治療が必要！

- 透析室：通常、週に3～4回、1回4～5時間を要する治療の場
- より高加算の透析治療：
 - ・長時間透析：1回6時間以上
 - ・頻回透析：週に5回以上
 - ・オーバーナイト透析：夜間の睡眠時間を利用

患者に選ばれる施設の条件
⇒施設の感染対策が必須となる

⇒透析室にいる治療時間が更に多くなるため
新型コロナ感染流行時でも

安心して透析治療ができるより良い環境整備が求められる！